

平成 22 年 5 月 28 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520582

研究課題名（和文） 国民的歴史学運動の京都地域における展開過程に関する研究

研究課題名（英文） A Study of Development Process of the National History Movement, "Kokuminteki Rekishigaku," in Kyoto Areas

研究代表者

田中 聡 (TANAKA SATOSHI)

立命館大学・文学部・講師

研究者番号：10368011

研究代表者の専門分野：日本近代史学史・日本古代史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近現代史・京都地域・教育史・データベース

1. 研究計画の概要

(1) 目的

本研究は、第二次世界大戦後、1950年代を中心に日本各地で展開された国民的歴史学運動の、京都地域（京都市及び周辺地域）における展開過程や、教育現場・文化行政などへの影響を、新出史料の調査検討と関係者からの聞き取りによって明らかにする。地域の戦後史を知る上で基礎となる史料情報を発掘・整理し、同時期に広く見られた他の文化・教育運動との相互関連について考察することで、この運動を様々な立場の人々にとっての「文化的経験」として定義し直す。

(2) 内容

日本史研究会・京都民科歴史部会等の学会所蔵資料、京都教職員組合・奥丹後地方教職員組合や地方史サークル等の資料の所在を確認し、調査して目録を作成する。

戦後歴史学・地域教育を担った研究者・教育者や一般市民から、1950年代の京都周辺地域における歴史学研究や教育運動等の実態に関する聞き取り調査を行い、貴重な証言を記録する。

調査・研究結果を随時公開するとともに、データベース化し、今後の利用に供する。

以上を研究代表者が主催する「戦後歴史学ワーキンググループ」の関西の若手研究者数名（研究協力者）とともに進めていく。

2. 研究の進捗状況

(1) 関連資料の調査・整理

京都の歴史関係学会の資料については、京都民科歴史部会の全所蔵資料目録を完成し、主要なものをデジタルデータ化した。その過程で国民的歴史学運動の代表的な成果と評

価されている紙芝居「祇園祭」の35mmフィルム版を発見し、紙芝居を復元した。

教職員組合関係資料については、京都教育センター・奥丹後教育会館所蔵資料の調査を進め、1950・60年代を中心に主要資料の分類整理・目録作成中である。なお後者については所蔵先移転ともなう廃棄の可能性があるため、近接する京丹後市の市史編さん室と交渉して全点一括での移管を行った。

個人所蔵資料については、東上高志氏・故三品彰英氏の資料を調査し、目録を作成した。

他地域の国民的歴史学運動に関する文献史料の調査を、東京・熊本等で行った。

(2) 聞き取り調査

市原寿文・井ヶ田良治・藤間生大・脇田修・池田富・堀江保次（ほか奥丹後教組の教職員）・東上高志の諸氏に戦後の歴史学会や教育運動の実態に関するインタビュー・座談会を実施し、一部を原稿化した。

(3) 成果の公表

京都教職員組合主催の京都教研集会・公開研究会において、2007年11月11日・2009年1月24日・同年9月13日に研究成果を報告した。

2008年2月24日には、『昭和史論争を問う』（日本経済評論社）の共著者を招いて公開書評会を行った。

日本史研究会・京都民科歴史部会共催の市民講演会（2008年7月13日）にて、復元した紙芝居「祇園祭」についての講演と学生サークルによる上演を行い、TVや新聞各紙に取り上げられるなど好評を博した。

成果の一端を研究代表者・協力者がそれぞれ論文化し、著書や学会誌等に発表した。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)以前から進めつつあった京都教職員組合資料・奥丹後教職員組合資料の調査については、2007年度以降の取り組みによって最終年度内に1950-60年代までの主要資料の目録化がほぼ完了する目処が付いた。また個人所蔵資料や聞き取り調査においては、当初予定していた歴史学会の関係者数名の他に、もと教職員や故人のご遺族などから未知の資料や1950年代の実態に関する当事者ならではの貴重な証言を得ることが出来た。成果公表に関しては、当初の計画以上に研究集会や講演会などでの機会が増え、年度毎の成果をまとめる良い機会となっている。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度となる本年度は、2007年度以来蓄積した調査成果(資料目録・聞き取り調査の原稿・写真等)と、それを用いた論考からなる報告書の作成を主に進める。また成果に関する報告会を開き、調査・研究で得られた新知見を地域へフィードバックする予定である。本研究での資料情報・研究方法の蓄積をベースとして、今後はさらに調査研究の領域(時間・空間)を拡大し、戦前・戦後の京都における歴史意識の変容についての総合研究を行っていきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

田中聡、「三品彰英の神話研究 - その出発点」、近江の文化と伝統、査読無、上巻、2010年(予定)

花森重行、「国民的歴史学運動期における政治の多様性 - 民科京都支部歴史部会の紙芝居『祇園祭』に即して - 」、新しい歴史学のために、査読有、巻：275、2009年、ページ：45-66

〔学会発表〕(計4件)

生駒佳也、「戦後、京都における教育をめぐる状況 - 教員組合運動の位置づけをめぐって - 」、京都教育センター公開研究会、2009年9月13日、発表場所：京都市

櫻澤誠、「戦後沖縄における教職員運動 地域における教職員の役割 」、京都教育センター公開研究会、2009年9月13日、発表場所：京都市

生駒佳也、「戦後京都における教育運動の政治的位置 」、京都教育センター研究集会、2009年1月24日、発表場所：京都市

田中聡、「紙芝居『祇園祭』の再発見 」、日本史研究会・京都民科歴史部会共催市民講演会、2008年7月13日、発表場所：

京都市

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕